

ティンクルなごや通信

副院長 挨拶.....	1
フロアからの日中活動紹介.....	2-3
支援者向け研修会の報告	4

名古屋市重症心身障害児者施設
ティンクルなごや
指定管理者 社会福祉法人 むつみ福祉会
名古屋市北区平手町1丁目1番地の5
TEL: 052-916-0333

第7号
2020年2月

また新しい一歩

副院長 水野寛太郎

昨年7月よりティンクルなごやに参り、副院長を務めさせていただいております。医師としての出発は昭和58年で、大阪千里救急救命センター研修医時代を経て、名古屋市立大学病院小児科医師として25年間勤務した後、東部医療センター小児科に異動して、10年ほど一般小児科疾患及び小児循環器疾患加療に携わっておりました。

研修医としての第一歩は、昨今のドラマにもしばしば取り上げられる、緊張感の漂う救急医療や外科医療に魅力を感じて研修病院を選び、昼夜を問わずの日々を過ごしていました。救命センターでの研修医期間が終了し、何とかスタッフの一員としての採用が決まりかけたとき、救命を第一としての医療、また退院後障害を残された方々がどう生きていかれるのかにはほとんど関わることができない医療というものに違和感を持ち、人々の一生にわたる生活に寄り添った医療従事者になることができると考え、小児科医師として再スタートを切りました。

昭和の時代の小児科医療分野は、今のように細分化されておらず、受け持ちの患者さんの疾患も多種多様でしたが、その中でも先天性の心臓疾患に対する治療は困難を伴い、重度のチアノーゼ、

心不全を抱え常に急変のリスクと直面しながら生活上の制限を行っておられる患者さんもみえました。自分がそのような現状に対して少しでも役立つことができればと思い、小児循環器医療に携わるよう



になり、あっという間に35年余りが過ぎました。この間、小児循環器治療の分野は長足の進歩を遂げ、かつては夢のように語られていた人工心臓、心臓移植が現実のものとなり、他方では生前診断の進歩により障害を早期に診断し、対処していこうという医療体制になってきました。その流れの中で、負担を抱えながら生活を維持していこうという方々に寄り添った医療を志す医療関係者が、その場を狭くさせられている実情に遭遇することもしばしばでした。

今回、当施設にとのお話をいただいたときに、疾患はそれぞれ異なるとしても、ご負担を持たれた方々の長期にわたる生活、医療支援をさせていただこう、という今までの自分の気持ちに沿った働き方ができるのではと思います。また新しい一歩を踏み出させていただきました。至らないところ多々ではございますが、前向きに明るく皆様と日々歩いていくことができると存じます。よろしく願い申し上げます。



この冬の各フロアの日中活動の様子です。中面もぜひご覧ください

フロアからの日中活動紹介

日中活動で心がけていること

2階フロアは、医療度の高い利用者さんが多く、他のフロアの利用者さんに比べて表情が表れにくく、声も出ない方が多いです。そんな中、日中活動では、五感（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚）を感じてもらえるような活動を考えています。

季節を感じてもらえるように、気候のよい時期にはグループに分かれて屋外に散歩に出掛け、夏にはテラスに出て水遊び、シャボン玉、今年度はスイカ割りも体験しました。

製作活動では、利用者さん自身の手指を使って、粘土遊び、手形足形など素材の感触を楽しみ、作品を作

ります。

また、季節ごとの行事に、ご家族にも参加していただいて、夏には盆踊り、秋には運動会、冬にはクリスマス会を計画し、月1回、誕生会も開いています。

その他、外部の先生による音楽療法、ボランティアさんによるアロママッサージも定例化し、楽器の音や布の揺れ、マッサージを体感していただいています。

私たちは、日々の日中活動において、利用者さん主体の個々の特性に合わせた内容を考え、安全に充分注意をして、毎日をリラックスして楽しく過ごしていただけるように心がけています。

永池利恵・西堀真紀（2階 生活支援員）



初めての試み ～ティンクルコレクション～

紅葉が終わって年の瀬も迫る時期に、3階西フロアでは、今まで取り組まなかった新しい日中活動の企画に挑みました。その名も「ファッションショー」！今回は「ティンクルコレクション」と銘打ち、開催しました。

日頃利用者さんに着ていただいている服は飾り物が付いておらず、ゆったりとしている物が多いのですが、この日は特別です。ドレスであったり、浴衣であったり、はたまたご家族との思い出の品であったり。いつもと違う素材感に戸惑ったり、興奮されたり、喜ばれ

たり、利用者さんの表情も様々でした。

そしてランウェイを歩く利用者さんの姿を見て、ご家族もとても嬉しそうにされており、中には涙してしまう方もいらっしゃいました。終わった後の反響も良く、今後も2回3回と続けてほしいというご意見もいただきました。

今後も新しい企画に挑戦し、利用者さんの新たな刺激に繋がっていきたいと思います。

鈴木祐太郎（3階西 生活支援員）

利用者さんの味覚体験 ◆

3階東フロアでは、今年度の日中活動の新たな試みとして味覚刺激を行いました。

この試みを行うことになったきっかけは、ティンクルまつりです。今年度の6月に開催したティンクルまつりの出店ブースの中に、味覚体験コーナーがあり、そこでの体験を行う前に事前練習をしたことが始まりでした。

3階東フロアでは、8割ほどの利用者さんが、胃瘻や胃管チューブからの栄養管理となっており、口腔から食べ物や飲み物の摂取はされていません。そのため、綿棒の先にうま味や甘み、苦味と酸味を感じるた

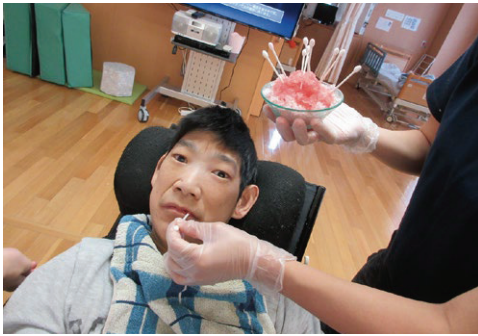
めの液体を少量つけ、舌に刺激を与えて感じてもらう体験を行いました。利用者さんの表情や反応は様々で、嬉しそうだったり、顔を歪めたりと普段はない反応を見ることができ、スタッフも驚かされました。

利用者さんの表情はどのように映るでしょうか。

体験された1人の利用者さんのご家族様からは、「嬉しそうだね」「もう一口、おかわり体験いいですか」と、体験に対してのお声かけをいただきました。

ティンクルまつり終了後も味覚体験だけではなく、他の感覚刺激なども継続して行っています。ホームページのスタッフブログにも体験記事を掲載しています。よろしければのぞいてみてください。

奥川啓子 (3階東 看護師)



支援者向け研修会 「重症心身障害児者の 看取りのケア」 を開催しました

2019年12月1日(日) 13時30分からティンクルなごや多目的室で、支援者向け研修会を開催しました。

今回は、「重症心身障害児者の看取りのケア～多職種協働支援とACP(Advanced care plan:事前ケアプラン)～」というテーマで、大阪発達総合療育センター副センター長(フェニックス園長) 船戸正久先生にお話をいただきました。

「臨床倫理」の第一人者である船戸先生がいらっしゃったということもあり、会場いっぱいの135名の参加者がありました。県内の重症心身障害児者施設の医師、看護師、生活支援員、訓練職員を中心にさまざまな職種の方が聴講されました。

冒頭に映画「こんな夜更けにバナナかよ」などの内容に触れながら、人の尊厳を守るとはどのようなことかについて語られ、前半はQOD(Quality of death: 死の質・看取りの質) 対

する医療者や支援者の対応としてのLW(Living will:リビング・ウィル)やAD(Advance directives:事前指示)、ACPのわかりやすい説明をしてくださいました。そして後半では、それらに取り組む際に多職種協働で、本人とその法的代理人としての家族と話し合い、本人の最善の利益をもとにしたACP作成と実例についてお話が展開されました。最後に「Rちゃんのフェニックス4階での思い出」というDVDを鑑賞した時には、多数の方々が涙をこらえきれずに画面を見ていました。

とても難しく、今後もさらに深めていかなくてはならないテーマですが、どう取り組むとよいのかという点では、参加者にとって非常に意義深い場になったと思います。

山口徳郎(研修会担当)



■公共交通機関でお越しの方

- 栄より/市バス栄11系統「西部医療センター」又は「志賀公園前」下車
- 名古屋駅より/市バス名駅13系統「又穂住宅東」
/市バス名駅15系統「城見通二丁目」下車

■お車でのお越しの方 「黒川」出口から約10分です。

名古屋市重症心身障害児者施設 〒462-0057
ティンクルなごや 名古屋市北区平手町1丁目1番地の5
 (指定管理者) 社会福祉法人 むつみ福祉会 TEL: 052-916-0333
 FAX: 052-916-0338

ホームページでも、日々の生活の様子や職員メッセージを配信しています。ぜひご覧ください。

<http://twinkle-nagoya.com>

